

伊那市横断歩道橋長寿命化修繕計画

(個別施設計画)

平成31年度～令和10年度



平成31年3月
(令和5年3月更新)

伊 那 市

目 次

1. 長寿命化修繕計画の背景と目的	P. 1
2. 計画期間	P. 1
3. 長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋	P. 2
4. 定期点検及び日常的な維持管理に関する基本的な方針	P. 3
5. 修繕、費用の縮減及び新技術の活用に関する基本的な方針	P. 3
6. 山寺横断歩道橋の点検・修繕時期計画	P. 4

1. 長寿命化修繕計画策定の背景と目的

【 背景 】

伊那市が管理する横断歩道橋は、山寺横断歩道橋1橋であり、2003年架設後16年経過している。

横断歩道橋においては、限られた財源と管理体制の下で、効率的かつ効果的な維持管理の実施により長期間健全性を保ち、利用者への安心安全な使用を提供することが求められている。

【 目的 】

山寺横断歩道橋は、市指定緊急輸送路（市道伊那北与地線）を跨ぎ、また小中学校の通学路としても利用されている重要な施設であり、大規模補修・全面改修する場合には、次のような影響が考えられる。

- ・通学、市民生活、及び緊急輸送路確保の観点より、安心・安全等への影響。
- ・工事コスト増大による財源確保が困難。

また、平成30年の定期点検においても予防保全段階である点検結果となっており、これらの問題を解決する維持管理手法として、従来の対症療法型維持管理（事後保全）から新たな予防保全型維持管理（予防保全）への転換を図る必要がある。

予防保全により、施設の総合的な維持管理コストの縮減と長寿命化、社会的損失の回避・抑制を図ることができる。

よって、この考えを取り入れた横断歩道橋長寿命化修繕計画を導入し、持続可能な維持管理の推進によって利用者の安心・安全な道路交通を確保することを目的とする。

2. 計画期間

修繕計画期間は10年間とする。R5実施の点検結果等を踏まえ計画の時点更新をする。



3. 長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋

【 計画対象横断歩道橋数 】

伊那市が管理する山寺横断歩道橋 1 橋について計画策定を行う。

【 橋梁の構成 】

横断歩道橋名	橋長	幅員	構造形式	架設年次	所在地	備考
山寺横断歩道橋	17.75m	1.5m	鋼床版箱桁橋	2003年	伊那市山寺	

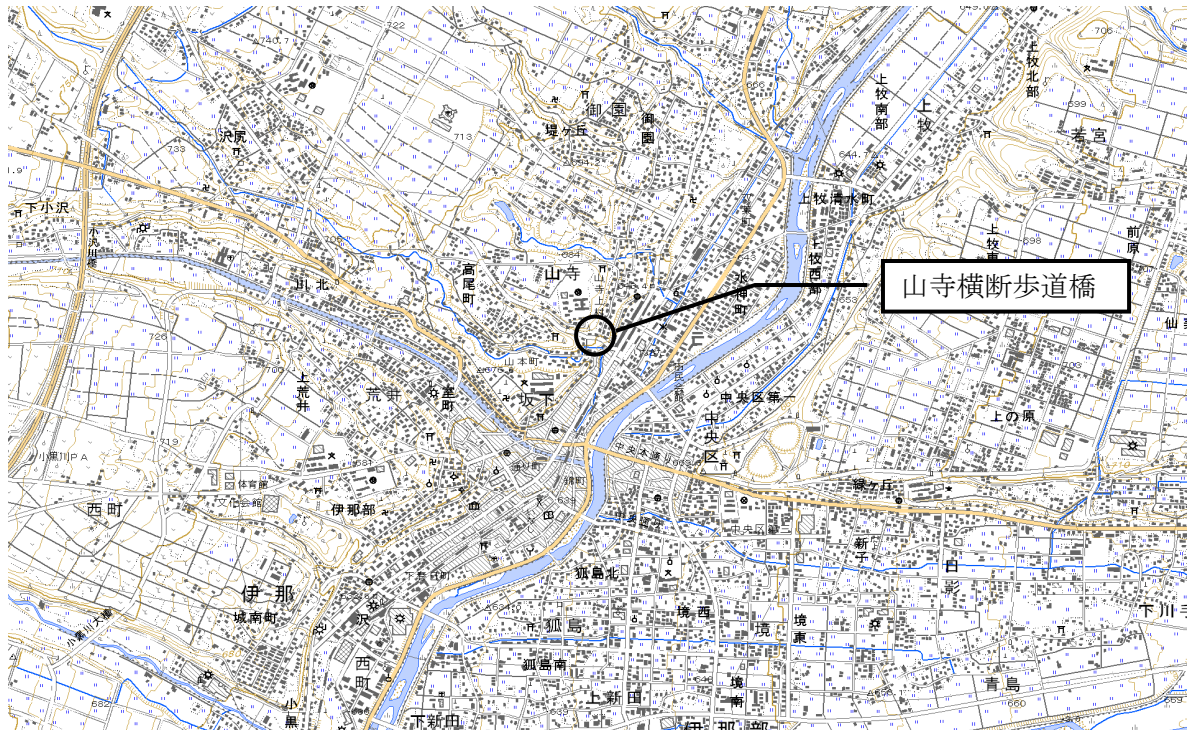
【 補修履歴 】

- ・H27 : 階段部弾性舗装の剥離箇所の補修工事
- ・R4.8月 : 階段部弾性舗装の剥離箇所及び点字ブロック剥がれの補修工事

【 対策の考え方 】

日常的な維持管理、定期点検及び予防保全型の修繕を優先して行うことにより、施設の長寿命化を図り、大規模修繕や架け替え等に必要となる費用の削減を目指します。

山寺横断歩道橋位置図



4. 定期点検及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

【 定期点検に関する方針 】

定期点検については、「横断歩道橋定期点検要領（平成31年2月）国土交通省道路局」により5年に1回実施し、横断歩道橋の損傷を早期に確認するとともに、部材毎の健全性の診断し、健全度を把握する。

【 日常的な維持管理に関する方針 】

横断歩道橋を良好な状態に保つため、点検・調査・清掃などの実施を行う。

① 日常点検

- ・巡回等により交通安全性を著しく損なう恐れがある損傷の確認。
- ・構造的損傷（腐食、亀裂、ゆるみ・脱落など）の恐れがある変状が確認された場合は、詳細点検を実施し、対処を行う。

② 維持管理の徹底

- ・階段部の蹴上げと橋台において、雨水浸入による表面弾性舗装の剥がれやモルタルのうき等の伴う腐食とコンクリートの剥離が見られるため、水溜り除去等定期的な点検と清掃を行い、必要に応じて補修工事を実施する。
- ・高欄手すりや照明柱のボルトのゆるみ確認、排水桝清掃等の定期的な点検が必要である。

5. 修繕、費用の縮減及び新技術の活用に関する基本的な方針

【 老朽化対策の方針 】

これまでの事後保全型の修繕から予防保全型の修繕への転換を図り、施設の修繕に係る費用の縮減を図ります。

塗装については当初施工から20年経過しているが、錆等もなく健全であるため、3期目の定期点検以降の点検結果により塗装の塗替え時期を検討します。

【 費用の縮減に関する方針 】

日常的な維持管理及び定期点検を行い、これまでの事後保全型維持管理から予防保全型維持管理への転換を図ることで、施設の維持管理に係る費用の縮減を目指します。

定期点検については、職員による直営点検とすることで、標準的な横断歩道橋の点検業務委託費用（約4,000千円）の縮減を目標とします。点検及び修繕について、新技術の活用による費用縮減や効率化等を検討します。

また、点検等の結果、大規模な修繕が必要となった場合は、施設周辺の状況を考慮しながら施設の撤去も含めて対応を検討します。

【 新技術等の活用に関する方針 】

定期点検及び修繕を行う際は、費用縮減や効率化等を図るために新技術の導入を検討します。特に、定期点検等の際に詳細調査を実施する場合は、新技術の活用を目標とします。

修繕については、NETIS（新技術情報提供システム）や塗装工法等の新技術の活用を検討し、効率向上、施工日数の短縮による1割程度の費用縮減等を目指します。

6. 山寺横断歩道橋の点検・修繕時期計画

表 山寺横断歩道橋の点検・修繕時期計画

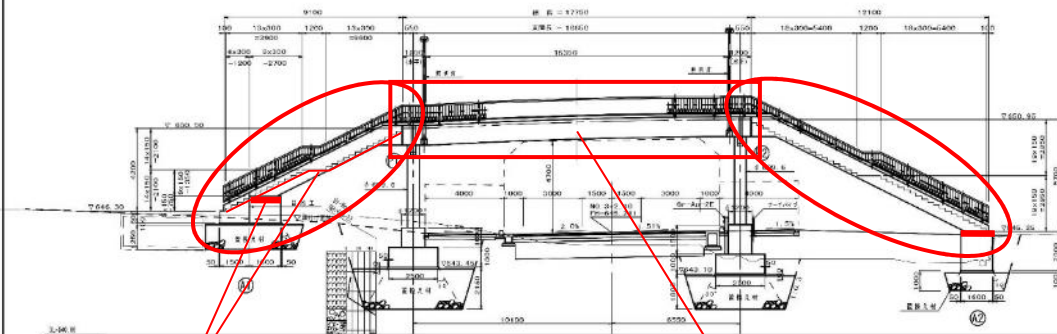
年度 西暦	H30 2018	H31(R元) 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028
点検 ※点検 結果	定期点検 II					定期点検					定期点検
調査											
修繕工事											上部工再塗 装・階段部 補修検討
日常維持 管理	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃	損傷確認と 維持補修 排水桝清掃

※点検結果 健全性の診断区分

健全性の区分		状 況
I	健 全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

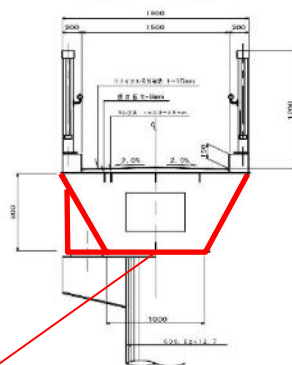
山寺横断歩道橋 補修計画一般図

側面図 0=1.100

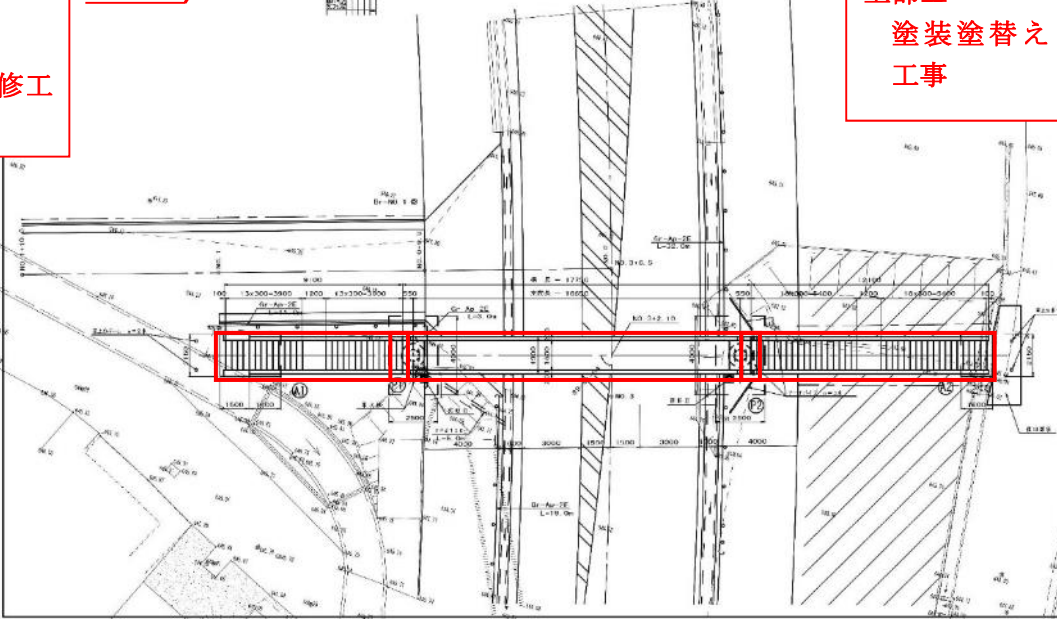


跨道部断面図 0=1.100

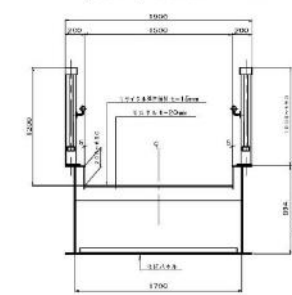
支点上 中間部



平面図 0=1.100



階段部断面図 0=1.100



階段部(両側)

- 防錆工事
- 橋台コンクリート補修工事

上部工
塗装塗替え
工事

材料表	
区	材料名
歩道	鉄骨鋼橋
橋脚	RC
橋台	RC
欄干	鉄骨
階段	コンクリート
防錆	防錆剤
その他	塗料
計	総計

平成14年度河川施設補修工事		
橋脚基礎補修工事 橋脚基礎補修		
実施年度 平成14年度		
実施場所 山形県		
実施者	設計者	監理者
山形県建設局	伊藤建設事務所	伊藤建設事務所
代表者	代表者	代表者
伊藤 隆之	伊藤 隆之	伊藤 隆之

別紙3 点検表記録様式

様式(その1)

横断歩道橋名・所在地・管理者名等

横断歩道橋名	路線名	所在地	設置位置	緯度 経度	35° 50' 43.56" 137° 57' 46.90"
山寺横断歩道橋 (フリガナ) ヤマデラオウダンホドウキョウ	市道(2級)伊那北与地線	伊那市山寺			
管理者名	点検実施年月日	2018年 7月 10日	点検員	伊那市建設課	也主査、北原技術主任、
長野県伊那市	調査実施年月日		調査員※1		
代替路の有無	緊急輸送道路	占用物件(名称)			
有	その他	なし			

部材単位の健全性の診断(部材毎に最も悪い判定区分を記入)

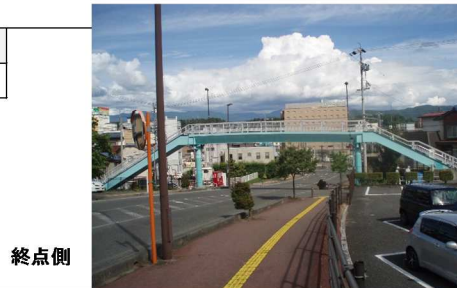
		点検時に記録			措置後に記録		
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁	I					
	床版等	I					
下部構造		I					
階段部		II	腐食、ひび割れ、剥離	写真5.6			
その他		I					

横断歩道橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II	階段部の変状は初期・表面部であり構造上の問題はないが、銅を進行させない対策が必要		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次※2	橋長(m)	通路幅員(m)
2003	17.8	1.5



終点側



A2橋脚

※1：調査員は、非破壊検査(板厚調査、き裂調査等)を実施した請負者等を記入する。

※2：架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。